

ない留学目的の学生を対象としたサマースクールに参加。TOEFL (Test of English as a Foreign Language) で、大学入学に必要な基準点をクリアできたので、秋前には合格が決まった。進学した大学はマサチューセッツ州ボストン近郊にあるセーラム市のCollegeでsocial workを専攻。

アメリカの大学には1年半在籍。夏休みは4か月間あり、そのうち2か月ほど、農家にホームステイした。その農家はトウモロコシなどの収穫物を孤児院や教会に提供する慈善事業・ボランティア活動を行っていた。だが、その取組を見る中で、こうしたボランティア活動に直接タッチする人の力だけでは限界があるとも感じた。人と人のつながりをバックアップしたい、と強く感じた。この経験がメディアへの関心呼び起こし、ペンの力、ジャーナリズムに目覚めた。日本に戻って、日本の大学に編入学することにした。(think globally act locallyの精神)。

母校には「自主マスコミ講座」がある。大学3年のときに受験した。とても人気があり、高倍率だったが合格できた。アナウンスコース、出版コース、放送コースや新聞コースなどがあり、新聞コースを選択。そこで鍛えられてマスコミに入社。

結婚・出産

記者生活が2年を経た頃に結婚した。妻は東京でリース会社に勤務していたが、結婚退職。以降は専業主婦をしている。妻が働きたいといえば、抵抗はないが、現在のところ、「働きたい」とは言っていない。

経済担当や支局など、勤務時間が比較的不規則ではない部署に所属していたとき、子供2人(次男、三男)を産んだ。政治担当の時はとてもハードで、その頃は、産まれたばかりの長男とは平日はあまり会えず、たまの休日にしか、ゆっくり遊べなかった。だからもう1人子供をつくらうとは、その時は思わなかった。それは、妻も同じだったようだ。

料理

料理は好きで、休日はカレーやパスタ、ピザなどを作っている。スーパーに買い出しに行くのも大好き。「葉物の野菜が高騰している」「バターが品切れ。なぜなのか」などと、時流や「旬」を感じとることができるから。

料理をしたら、食器洗いもする傾向にあると思う。料理をしたから、配偶者に食器を洗ってね、ということはない。

掃除

休日は、子供たちと一緒に「パパとぞうきんがけ競争だ！」と言いながら、遊び感覚で掃除を一緒にしている。子どもが散らかしたおもちゃを一緒に片付けたりもする。

ゴミは出勤がてら出すことが多い。風呂掃除も週に1、2回はする。庭の草取りは家族みんなで。

キッチン回り

My homeだし、きれいにしている。妻も綺麗好きだ。

子ども時代の家事との関わり

両親は自営業で、その家の長男として育った。弟が1人いる。父親が料理、掃除など何でもする人で、その姿を見て育った。店にあった食材で小学生のころからチャーハンや焼きそばを作った。両親は「うまいなあ〜」「また作ってね」といって、いつも褒めてくれた。だから「また作ろう」とやる気になった。

家庭科(小学校、中学校)の思い出

小学校では裁縫もしたが、授業でカバンか何かを作ったとき、楽しかった。週末、母親と一緒に布を買いに行き、母親に教えてもらって、財布か何かを作った記憶がある。母親に布を買いに行きたいというと「行こう、行こう」という感じだった。

中学では家庭科を習ったが、男子クラスでの家庭科学習だったように記憶している。調理実習では、鮭のムニエルやうどんを作った。ムニエルは美味しいなあと思ったので、自宅でも調理した。

大学生時代の料理

トン汁、カレーのほか、お好み焼きなどの粉ものも作った。タンパク質は圧倒的に肉で摂取していた。

財布の紐

結婚当初は「そうするものかなあと思っていた」ので、給与(キャッシュカード)を妻に渡し、「はい、小遣い4万円」といってもらっていた。しかし、取材相手との懇親会や日々の昼食などで、結構お金を使う。足りなくなる都度、「足りない」といってお金をもらっていた。第1子出産のため、妻が里帰りしたとき、キャッシュカードを妻から預かったが、それを機に、給与は自分が管理し、逆に妻に生活費を渡す形になっている。現在もこの形で生活している。

食材は週末、家族5人で買い出しに行く。旅行や遠出したときは自分がカードで支払っている。妻も特段、不満は言っていない。

子育て

休日や早く帰宅した日は、風呂に入れる。歯磨きもする、工作・切り絵や貼り絵を一緒にする。長男が料理に関心を持ち始めたので、「親子で料理を楽しむ方法」という記事を書いた。そのほか、「子どもに水ではなくジュースで薬を飲ませてもいいのか」など、日常生活で遭遇する疑問を、専門家の方に尋ね、それを記事にしたりもする。子供と関わることで記者の視点や記事に「広がりが出た」。

住宅購入

住宅は30歳のときに、購入。

ライフスタイル

子供のことを第一に考えて生きている。子供の笑顔が現在が一番大事。

その他

「俺が稼いでいる」。確かに、そうかもしれない。しかし、それは「言われ尽くした、古い言い方」。むしろ、妻が毎日する家事、育児は重労働。「俺のおかげで飯が食える、暮らせる」という考えはまったくくない。

(4) O氏

日時 2013年1月31日(木) 11:50～12:50

場所: E事務所内

プロフィール

42歳。ご両親と妻(正社員34歳、長岡出身)、娘2人(中1、小3)と同居。運転手をしている。高校時代はアルペン競技の選手だった。合宿もあったが、食事は出てくるから、合宿で食事を作ったことはない。現在は、休日には、地元長岡でスキーのインストラクターをして、主に小学生たちにスキーを教えている。妙高の傾斜や雪質が好きという。一人暮らしの経験はない。

現在の家事との関わり・情報

家事は、「自分が休日で、時間があって、気が向いたときに」行う。家事の中では料理を行う頻度が最も多い。夕飯のおかずとして「モツ鍋、カレーやハンバーグ」などを作るが、「妻よりかける時間が長い」。モツも、脂をきれいにカットして、モツだけ2度ゆでこぼしを行い、アクを丁寧にとりながら、味つけたものを一晩おいてから食べる。そうすると、淡泊ながら味がしみて美味しい。朝、昼、晩3回食べても飽きない。

味付けは自己流で、クックパッドや料理本は特に見ない。居酒屋などでアルバイトした経験もない。食べたい味がある、それは外食したときの好みの味かもしれないが、そこに近づけるべく、トライしている。

朝は、勤務が早番の時などは、冷蔵庫にあるソーセージ、ベーコンやハムと目玉焼きくらいはさっと作って自分で食べて出ている。弁当はめったに持参しない。出先で食べる所がないとわかっている時に、持参するくらい。

料理をするのは「美味しいものが食べたいから」。「包丁をよく使っている」。魚を開くこともできる。

掃除も、「自分が休日で、時間があって、気が向いたときに」掃除機をかけたり、ぞうきんで、サッシを拭いたりするくらいだ。

スーパーの買い出しは楽しいし、週2-3回は、仕事帰りに寄って買っている。

洗濯は、同居している実母がすべて担当している。夕食担当は妻。

学校教育と家事

中学では「ある期間だけ、家庭科と技術を交換していたと思う」。「いつもは女子が家庭科、男子が技術だったが、ある期間だけ、女子が技術、男子が家庭科をした。調理実習もあったと思うが、記憶がない」。現在は、男女共修になったのであれば、「学校で、しっかりと学ぶ機会があつて、良いことだ」。

高校3年次の選択科目「食物」

大学に進学する友達は「英語」を履修していたが、自分は英語が苦手だし、単位を落としてもいけないので、「食物」を選択した。選択科目には最少履行人数があつて15人と決まっていたので、友達と一緒に何とか15人(男子5人、女子10人)集めて登録した。授業は通年で1週間に3コマ(2コマ連続で調理実習が1回、1コマは授業)の授業だったように記憶している。だった。メニューは先生が決めて、材料の買い出しは前日夕方、班ごとについて、学校の冷蔵庫に入れておいた。そこでは、「ちまき、笹団子、中華風蒸しパン、煮物やクリスマスにはブッシュドノエル」を作った。食物調理技術検定などもあつたので、そのために「ハンバーグやマセドアンサラダ」なども作った。週1回といえども、年間を通して料理を作ったことが、現在の家庭生活に影響を与えている。

職場の雰囲気

職場で子どもの話はできるが、「家事をしている」とか「こんな料理を作った」という話題は出ない。子どもの話ができるのは、日帰りスキーツアーなどが年に数回あつて、そこで子ども同士仲良くなったりするからだ。

料理をしない既婚男性へのサジェッション

「料理、作ったけど、これ、食べてみて」といって出して、食べたら「どうだった、これ、自分が作ったんだ」といった状況を作ると「彼が作れるのなら、自分もこのような料理を作ることができるかもしれない」と思うようになるのではないか。「他人の考え」を変えることはできないが、このような状況を体験することで、「行動」は変わるかもしれない。

財布の管理

「しゃもじ渡し」(家計管理責任者の引き継ぎ)は未だ行っていない。家計は「両親」が握っている。自分は給料の約半分を現金にして、毎月、決まった日に決まった額を両親に家族全体の生活費として渡している。残りは、子どもたちの学費、自分たち夫婦や子どものための貯金、保険の掛け金と自分の小遣いになる。一方、妻の給料は、日常的な子どもの支出。具体的には子どもの小遣い、学用品や洋服の支出や妻の小遣い。だいたい、妻がいくら貯蓄しているか、何となくはわかっている。

配偶者との結婚・継続就業

奥さんは、友人の友達の同僚。結婚するときに「仕事は続けたい」といっていた。自分としても、その方が良いと思っていたし、両親も特に反対はなかった。

配偶者は結婚・出産を経て現在も正社員として勤務しているが、「職場の理解、具体的には転勤がないし、車で10分程度の距離にあること、家庭の理解、具体的には両親同居で何やかにや、元気な両親が面倒をみてくれること、その他、自分としても社会に出ていた方が学ぶことが多いと思うから応援している」。

あなたにとって家事とは何ですか

生活のサイクルの中の1つ。特別のことではない。料理は面白いと思う。

「できるだけしたくないって思われますか？」との質問には「その感覚は遠い」。「家事はつまらないって思われますか？」との質問にも「その感覚も遠い」とのことだった。

(5) T氏

日時:2013年2月5日(火)09:00~10:15

場所:新潟大学教育学部高橋研究室

特徴:ワーク・ライフ・バランスの専門家。子育ての体験と仕事の体験は良く似ている。

キーワード

肩書きをはずしても生きていける、人生二毛作、「手伝う」という意識ではダメ、文句は少しずつ小出しにして、「プチ成功体験」が必要、「折り合い」をつける

プロフィール

新潟県三条市出身、49歳、新潟大学人文学部卒。配偶者(39歳)と子ども2人(6歳、4歳)の4人家族。核世帯。

経歴

大学卒業後、他大学で大学院進学の準備として聴講生をしていたが、生活に追われてアルバイト先の書店に就職したため、結局進学はしなかった。マンガも書いていた。投稿して入選した経験もある。大手出版社でマンガを出してくれるという話がもちあがり、自分専用の担当者もついたが、書ききることができなかった。40歳までは千葉で生活。結婚は30歳の時だった。

40歳になり、東京の表参道にあるN'ESPACEにUターン情報センターに登録したら「今度、朱鷺メッセに出店するコンビニの店長にならないか」という話があり、新潟にUターンした。そこでは店長兼取締役。併設されていたパスポートセンターの証明写真も取り扱っていた。後にパスポートセンターが市に委託されたこともあって、コンビニ店長を辞職。その後、保険セールスに従事した。このとき、損保・生保の上級資格を取得、同時にAFP(Affiliated Financial Planner)資格も取得。これは半年間、ユニゾンで開講されていた講習会に通った。現在は、ワーク・ライフ・バランスのコーディネーターとして、企業の指導にあたっている。

生育歴

父親は教員、母親は保育士。三人兄弟の長男(弟と妹)。父方祖母とも同居していた。父方祖母は厳しい人で「御飯は正座、テレビは見ない」を徹底させられた。

小学生の頃は土曜日が半ドンだった。この頃から、土曜の昼食は自分で作っていた記憶がある。小学2年生の頃、シンクに氷をいれてシンクを詰まらせたことがある。焼き飯を作るとフライパンが焦げ付くから、どの時点で油を入れたら焦げ付かずに美味しい焼き飯ができるか、と考えながら作っていた記憶がある。

高校生になった頃、母親がフルタイムで働き始めた。母親はその時、「あなたたちは育てあげた。これからは自分で何でもやりなさい」と「主婦廃業宣言」を行った。

現在の生活スタイル

日曜日は、子どもの関心のあるコト、モノをおっかけて家族で遠出をする。例えば、長女は現在、恐竜に凝っているので、彼女の好奇心を刺激し満たすために群馬、福井、石川、磐城、十日町、その他アクアパーク(市内西区)など、ほぼ毎週、家族で出かけている。

現在の家事分担

- ・食事作り: 自分は社長＝自営業で、配偶者はフルタイム雇用者だから、夕食は一切、自分が担当している。朝食は妻、昼は自分で適当に作って食べている。玄米を食べる直前に精米して、ガスで炊いている(2合/回)。
- ・洗濯は、干して、取り込んで、畳んで・・・何ら問題ない。
- ・掃除は、好きでない。
- ・ボタン付けは妻にお願いする。

家庭科の授業の記憶

料理実習では、目玉焼き、粉ふきいも、御飯、みそ汁を作った。

裁縫の時間は、運針やミシンを動かした。

家計管理

自分が行っている。妻の給料はすべて自分が管理。妻が「仕事で一杯一杯だから、家計管理まで考えられない」ということだったので、自分が担当することになった。

料理作りも家族との相互作用

以前は、メインの一品にこだわり、それを大皿にドカンと盛り、あとは御飯とサラダ、という感じだった。しかし、どうもおちつかない。そこで、お総菜を買ってきて、お皿に移してテーブルに出して、品数を増やした。そのうち、豚肉を買ってくると、それでドカンと1品を作るのではなく、2つにわけて、それぞれ別の料理をして皿数を増やすようになった。野菜も、人参をコンソメで

湯がいたりして、テーブルに出す。すると、子どもたちが「パーティみたいな感じ」といって喜んで食べてくれる。現在、妻が入院中で何にかも一人でやらなくてはならないから久しぶりに一皿ドカン料理を出すと「今日は料理少ないね」といわれた。しかし、子どもたちもよくわかっている。妻が入院することになったとき「これまではパパとママでやってきたことを、パパが一人でやらなくてはならないから、お手伝いしてね」というと、長女は「うん」といってくれたし、昨日も「パパ、美味しいよ」、「作ってくれてありがとう」といってさりげなく、労ってくれる。

子育ては、会社における女性社員育成と状況は似ている

子どもが3歳くらいのとき、卵を割りたいというと、妻は危ないからダメっていつていた。確かに、子どもが卵をうまく割れるはずがないし、片づけが大変な事態になることは容易に想像できる。しかし、これは、子どもの背伸びをしたいという欲求を親が勝手に拒否していることになる。卵は割れても、たとえ殻がはいった卵焼きや目玉焼きだったとしても、子どもが得ることができた「卵を割ったのだ！」という「達成感」をもぎ取っていることになる。達成感こそが、自分に対する自信(自尊心)につながっていくと考えるので、これは大問題だと感じていた。職場でも同じだと思う。たとえば、部下に仕事を割り振れば良いのに、未だに伝票整理を抱え込んでいる部長がいる。その仕事は、部長の仕事ではなく、係長の仕事だ。どんどん部下に仕事を割り振り、職位にふさわしい仕事をすればよいのに任せられない。すると、部下も新しい仕事をするチャンスが削がれたことになって、仕事人として成長しない。「1円玉しか知らない人は1,000円札を急には使えない。1円玉を使いながら10円玉があることを知り、10円玉を使うことで100円があることを知り、100円を使う中で1,000円札があることを知る」。

職場で楽しくすごすには、自分が「折り合いをつける力を持つこと」が大事

折り合いをつけることができる力は、とても大切なことだと思う。自分も日々、プチ成功体験をしながら自分の大きさも変わり、角の出っ張りごとれて丸くなってきたりする。それは他人も同じ。アメーバーのように形を臨機応変に変えながら、しかし核となるものは大事にもって、他人にグチをいったり、ぶつかったりするのでなく、家族、同僚、会社や生活環境と「折り合い」をうまくつけて生きていかねなくては、組織で大成することはないだろう(お話を聞きながら感じたことを文章にしました)。

また、愚痴をいっても仕方ない。次の行動につながる意見をいうことが大事だ。

文句は少しずつ、小出しにして

文句はいきなりドンと出すのではなく、ジャブのように、小出しにしておくことが重要だ。

(6) I氏

日時:2013年2月12日(火) 16:00-17:15

場所:新潟市内会館

プロフィール

37歳(行政職)、妻(38歳)と男子2人(小学5年生、5歳)の4人家族。フルタイム正社員(公務員)カップル。住まいは両親と同居。玄関のみ共有の二世帯同居。ご結婚は、職場結婚(市役所で同じ課に所属)。

料理

母親は高校生の頃、フルタイム勤務になったが、自分たちのは母親が担当していた。父親は当時は、家事はしなかった(現在もしていないが、たまにカレーくらいは作るようだ)。

現在、平日の朝食は、自分と子供2人の3人分を用意。平日の夕食は、自分と妻の2人分。夕食の担当を始めたのは、第2子が生まれてから。特に夫婦でどちらが担当するか、話し合いをしたわけではなかった。妻は料理があまり得意じゃないし、仕事から戻ると保育園との連絡帳を見たり書いたりするのに忙しそうだった。妻の作る料理は「保健師という仕事柄か、塩分控えめで、味が薄い」。とくに妻に作ってほしいとは言わなかったが、味が薄いというクレームは言っていた。「美味しいものを食べたい」、ならば「自分で作ればいいや!」という感じだ。

現在は、自分たちの帰りが不規則でもあり、子供たちは1階の両親が定時に夕食を用意して食べさせてもらっている。食費として月1万円両親に渡している。最初は自分たち夫婦の分も含めて4人分、用意してもらっていた(月2万円渡していた)が、帰宅時間は夜8~9時になることもあり、家族の食事時間には間に合わない。「帰るコール」はするものの、「片付かない」と文句をいわれる。夫婦2人の夕食ならどうにもなるし「夫婦の分はいいよ」。それ以降は、自分が作っている。

休日は、焼きそばや牛丼などを昼食に作る。「パパの方が(ママより)美味しい」(長男)といってくれる。昔は外で食事をすると「やっぱり、外の方が美味しい」だったが、今は「外より自宅の方がずっと美味しい」。

「家飲み」で作るつまみは、グラタン皿に冷凍フライドポテトを敷いてビザ用チーズをふりかけ、斜め切りしたウインナーをおいて、その上にトマトソースやチーズを振りかけてオーブンで焼く。ジャーマンポテト風で簡単にできるし美味しい。手抜きで、かつ受けの良いレシピをもっと知りたい。妻がしている料理関係の家事は、夜、朝ごはん用にお米をとぐこと。

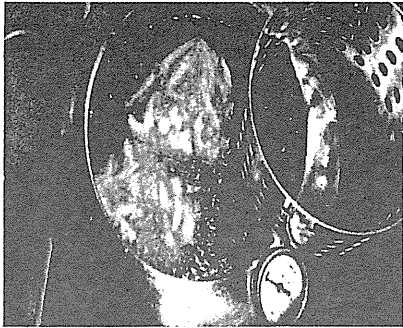
料理メニュー

かき揚げ:総合生協で専用器具を購入。1,000円くらいだったか。台所にある野菜を適当に、彩り良くミックスして作る。1分もあればできる。大量に作って冷凍し、夜食のラーメンや鍋焼きに入れて食べている。

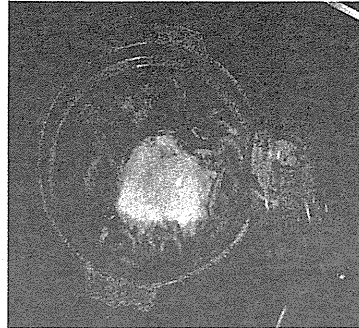
イカリングフライ:クックパッドをみながら作る。

冷しうどん:ワカメ、キュウリ、大根おろしやきざみ海苔をかけて食卓に出す。彩もよく食が進む。

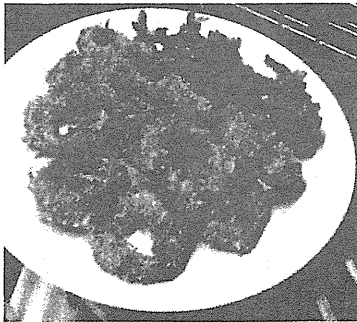
煮物:冬至の煮物として、鍋に生ラーメン、カボチャを入れて作った。手羽先に人参やジャガイモを入れて作ることもある。これは子供が大好きな料理だ。妻が作ると材料が手羽先からこんにゃくやキノコなどに変わる。これじゃ子どもは食べないだろう。



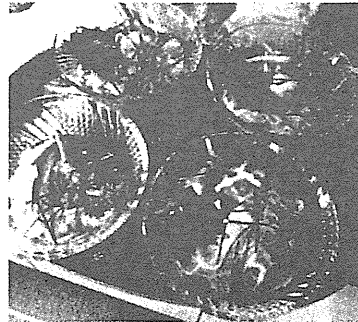
かきあげを揚げています



鍋焼きうどん



イカリング
(撮影)I氏



冷しうどん



ショウガ焼き

料理には「小技」が必要。それがあるとグンと美味しくなる。レトルトあんかけなども、家庭にある野菜など具材を適宜、追加すると楽しい。素ラーメンで食卓に出すのはおもしろくもない。肉系の具材としてベーコンかハム、火の通りやすいモヤシや甘味のあるコーンを加えると、子どもたちも食欲が湧いて良く食べてくれる。コーンも、缶詰を適当に小分けして、ジップロックなどファスナー付の袋に入れて冷凍保存。常備食材の1つ。

料理のスキル習得

料理の作り方(洗濯の仕方も含む)は、最初は妻から教えてもらった。最近も「鰻のさばき方」を尋ねた。料理本は2冊しか購入していない。後は、地元新聞に掲載されたレシピ、ネットのレシピを見ることが多い。その他、強力に役に立っているのが「調理員さん」の意見だ。組合関係の仕事で交流ができて、イクメンの私にいろいろ教えてくれる。調理員さんは、「男性の料理は、一般的に、融通が利かなくて、高い食材も平気で買うが、それでいて、手間はさほどかけない。しかし岩野さんは、有るものや安く買えるもので美味しく作る工夫をするから、凄いね」と言ってくれる。

料理に対するこだわり

こだわりの1つに、「塩」の使い方がある。料理用の塩には、塩水を蒸発させて作る塩と、岩塩鉱で掘った塩である岩塩があるが、海の食材には山の塩を、逆に山の食材には海の塩を使うと美味しい。

カレーのルーも、数種類ミックスさせると美味しい。

子どもとの関わり

長男はおなかがすくのか、夜食としてラーメンの作り方を教えて、といつてきた。自宅には冷凍のうどんやラーメンを常備している。そこに、手作りの冷凍かき揚げを電子レンジで温めてのせて食べるのが我が家流。

台所や調理器具

調理器具の更新は自分の担当。「20センチのフライパン」は日常使いだから、1,000円程度の、ホームセンターやスーパーで売っているものでよい。傷んできたら1~2年でドンドン更新する。「30センチのフライパン」は炒めものに使う高級品で3~4,000円はする。現在のものも3年目。大事に使っている。

ガスコンロ(3口)も欲しいものがあって、昨年夏のボーナスで購入した。ガラスストッププレートで、掃除も楽だし、つねにピカピカで気持ち良い。型落ち商品で8万円くらいした。このような台所整備の更新は、親と相談しながら行っている。

年末の大掃除で台所は「きれいにした」。ペットボトルや缶も台所内で分別できるよう「所定の場所をもうけている」。「妻には汚すから、あまり使わせない」と言いたい。

育児休業を8週間取得(第2子)

第2子のとき、育児休業を8週間、取得した。長男が年長さんで保育園生活に馴染んでいたこともあり、「里帰り出産」という選択肢はなかった。ちょうどその頃(2007年頃)、次世代育成支援対策推進法に基づいて、事業所が行動計画を策定しなくてはならない時だった。それもあってか上越市役所の人事当局から「とってみませんか」といわれた。職員数が2000人規模だから、職員の家族状況などもよく把握しているのだろう。市役所では男性の育休取得者は自分で6人目だった。

妻の「帯があける」までは、料理、洗濯、掃除、保育園送迎すべて担当した。「使えばいい」といわれたが、洗濯もした。一番嫌だったのは、洗濯ものを片付けること。干すのは好きだった。畳んだ洗濯ものも、それをどこに片付けたらよいか、わからなかった。

長男が通う保育園の「保育園ルール」にも戸惑った。連絡帳には毎日親のコメントを書かなくては行けないが、何を、どう書けばよいか、わからなかった。名札をつけろといわれても忘れてしたりした。着替え用の洋服を持参するが、どこに何を入れたらよいか。「所定の場所」がわからな

い。パンツもプール用のパンツと泥遊び用のパンツなど、細かく分かれていて慣れるまで苦労した。

育児休業を取得した8週間、もっともストレスになったのは、家事をすることではない。「時間があまっても、話をしたり遊ぶ人がいない」ということだ。「女性は、同じような環境の人が周りにいていいなあ」と心底、思った。女性は育児ママ同士で出かけていってお茶会ができる。町内にもネットワークがある。しかし、育児パパにはそれがない。掃除洗濯や料理は4時間もあれば終了する。育児休業中は、職場との接点が切れている。時間ができても、まさか同僚を飲みにも誘うこともできない。だから帯があけてからの金曜日か土曜日は、地元の同級生を誘って飲みに行っていた。

育休取得の経験と仕事

自治労との関わりは実質5年、専従になって2年だ。育児休業取得者と連絡をとったり、情報提供を行っている。育児休業をとったということは、組合でのキャリアに役立っている。「ご自分の経験でお話してください」といわれ、子育て支援として制度の学習会に体験談を含む講師をしている。男女平等推進やワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる。

一人暮らしの経験

高校生時代、スキー場で通算6か月間、バイトをしたが、これが唯一、親許を離れた経験。ただし、食事は賄付だったので、自炊の経験はないが、掃除と洗濯はした。

家庭科教育

中学校では家庭科履修した。裁縫、料理をしたと思うが、具体的に何をしたか、面白いとか楽しかったという記憶は、ない。キャンプでカレーを作ったが、その時も「野菜を切って、持っていらっしやい」といったものだった。米は、飯ごうで炊いた。

家計管理

電気・ガス・水道など光熱費関係のメータは1つ。費用はすべて親世帯と折半している。新聞代や町内会費は親負担。代わりに、光回線の使用料を支払っている。

妻の給与も自分が管理している。妻には小遣いとして毎月2万円、渡す。自分の小遣いは3万円(以前は1万円だった)。日々の生活に必要な現金は手提げ金庫に月初めにある程度、あるようにしている。手提げ金庫の具体的な用途は、週末の食材の買い出し(1回7,000円ほど)、仕事人として生きていくための必要経費である妻の美容院代、洋服代も含まれる。それは「生活していくのに必要だから」。高級時計など趣味の範疇のものは小遣いから拠出するようにいっている。たとえば、メガネを変えたばかりなのに、週末用のファッションブルなメガネが欲しい、となったら、それは自分の小遣いから、となる。

親世代の意見

両親は、基本的に成人するまでが親の仕事だ、と言っている。結婚して所帯を持ったのだから、と甘えは許されない。でも、孫はかわいいから面倒をみるのだろう。

すべての前提に

すべての前提に、妻が自分と同額もしくは(1歳年上で公務員ということもあり)少し多い給与を稼いでいる、ということがある。仮に、妻がフルタイムで働いていたとしても年収200万円に届かないようなワーキング・プア的な働き方だったら、当然、家事はすべて妻にやれ、といっているだろう。

家事とは何か

料理は、家族とのコミュニケーション手段だし、美味しくものを食べるための手段だ。楽しいかといわれれば「それは微妙」。自分や家族の要求を満たすためにやっている。平日の夕食は2人分、作りながら、つまみながら食べている、という感じ。

その他

- ・チラシはみないが、親は気が向くと、特売品を教えてくれる。
- ・自分の趣味品や子どものゲームで目的なものがはっきりしている場合は、ネットショッピングを積極的に使っている。

(7) N氏

日時:2013年3月21日(木) 09:30-11:30

場所:市内ファミリーレストラン

プロフィール

神奈川県出身50歳。現在は大学で生涯教育を教える。家族は妻と娘2人(13歳、小学2年)。サラリーマン生活をしていた時、妻と出会う。

NPO法人育ちの森には2004年から関わり、役員を務めている。転勤族として住み始めたとき、第1子の成長に大きな支えとなり、頼りになったのが地域の子育て支援センター「育ちの森」だった。そこで新潟に馴染みのない配偶者は、ママ友を見つけたり、口コミの情報を入手して子育てをした。時間があるときに顔を出しているうちに、出版社勤務の経歴がかわれて、季刊情報誌「ここから」の編集を手伝うようになる。子育てから離れた妻も、ピアノのレッスンは午後からなので、時間があると手伝いにいっているようだ。

家事

家事は「関係性で決まるでしょう」。妻に留守番を頼まれたときなど、じゃあ、子どもいっしょに買い物に行くか、となる。子育てでもあり家事でもある。自分にとって、家事とは、そのようなときに生じるものだ。

料理・妻のgatekeeper

妻は料理が上手だし、台所にはあなたは入ってこないでオーラを出している。具体的には、自分や子供たちが食べた食器くらい下げようかとする、「いい、いい、やめて、やめて」と言って阻止する。ジェンダー化されているというか、妻はキッチンに入られることを嫌がる。それもあって、料理はほとんどしない。今日も弁当をもっているが、妻が作ってくれた。キャンプなどでバーベキューはするが、これは家事というより趣味だ。

ある友人が43歳で第3子を授かった。彼女は「夫がキャラ弁も作ってくれる。とても協力的だから3人目を考えた」という。男のキャラ弁サイト(例:クックパッド・「キャラ弁 男のレシピ110」<http://cookpad.com/search/%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%A9%E5%BC%81%20%E7%94%B7>)もあるが、あれはどうみても、男の凝り性そのものを表現している。

あるとき、配偶者が「冷蔵庫が音がしだしたし、冷えが悪くなってきた」というので「そうなんだ、じゃあ、新しいの買う？」というと、妻はすぐにK'sケースデンキに行って、3時間くらいかけて、どの冷蔵庫が良いか、店員と相談して帰ってきて、パナソニックの冷蔵庫がいかに優れているか滔々と話した。妻の話を聞きながら「これは、男の車に対する愛着と同じ！」と思った(「男の車感覚」)。そのくらい、妻は家事に情熱を傾けているし、自分の担当領域と自負しているようだ。妻は評論家の樋口恵子ゼミの出身だが、妻はジェンダー化した行動をとっている。

食材の在り方はだいたいわかる。しかし、おろし金やピーラーといった、普段はあまり使わない、ちょっとした調理器具は場所がわからず、使おうと思った時には探すこともある。

ゴミだし

これは行う。

掃除

妻が家にいるので、ある程度、綺麗になっているから、することはない。しかし、家の綺麗さの程度は、地元の方には及ばない。神奈川出身で新潟で生活するようになったが、新潟出身の方の家は、とても手入れが行き届いて、奇麗にされている。男性も植木を手入れしたり、玄関回りをはいたりとマメだ。新潟は農業県で封建的というイメージが何となくあったが、それは間違っていたのか、それとも時代とともに変わってきているのか。または農業県で妻も農業に従事しているからこそ、男性が家事をしているのか。昨年、キンビールの調査で新潟の男性は家事をよく行うという調査があったが、本当に男性はじめ新潟県民は「マメ家事」だと思う。

新潟県はそもそも農業県だから、朝が早い(筆者注:ご近所でも、夏は早朝5時から掃除機をかけている!)。「フィンランド型」。フィンランドでは朝8時から仕事が始まり、夕方5時には帰宅の途につくといわれる。夕方から家族でゆっくりできる。ムーミンパパはロッキング・チェアで本を読んでいる姿が多いが、あれがフィンランドの父親像、ロールモデルだ。だから、子どもたちも良く本を読むし、家庭内蔵書数もNO.1。

赤ん坊の世話

埼玉県で家族生活をスタートした。この時、すでに義母は亡くなっており、祖母力を期待できなかったこともあって、子育てに関わろうとした。もちろん、自分の性格(子煩悩)もある。具体的には、今から13年前の2000年当時、伊勢丹デパートでオムツを買っていたら、掃除婦をしている中高年女性から「あら、珍しい」と声をかけられた記憶がある。そんな時代だった。子供のオムツを男子トイレでかえるときも、便座の蓋を下して、ジャケットを敷いて赤ちゃんをおいて交換していた。今日では男子トイレにもベビーベッドがあるから、楽だ。時代は行動に対応して変化している。

子ども時代の家事との関わり

ほとんど記憶にない。

家庭科(小学校、中学校)の思い出

玉結びやミシンをかけた思い出はある。

一人暮らし時代

サラリーマンの2年間か。外食半分、あとは家でお米を炊いてお惣菜をスーパーで購入した生活だった。家事全般に関しては、見よう見まねで、一通りはこなすことはできる。

財布の管理

自分の給与も妻のピアノの月謝も、すべて妻が管理している。ただし、家計簿をつけていないから厳密な意味では「管理」とはいえない。自分も子供たちも「小遣い」というものはなく、必要な時にお金を妻からもらう。

家庭人になろうとする男性の戦略

- ・若い子たちのよきロールモデルがないことが問題だ。
- ・育児・家事に関心のある若い世代には、職場の机の上に家族写真を飾り、自分は家族を重視しているということをそれとなくPRするよう勧めている。(筆者注: そうしないと、いざ育児休業をとろうとすると上司の反応は「なぜだ! ? 会社に不満でもあるのか」となって変に勘繰られる。育休をとるという行動を予測できない上司が多い)
- ・自分の世代(50代)は、家事や育児に関わっている父親は少数派だったが、現在はそれほど稀有な存在ではない。若い父親は「家事や育児はするのが当たり前であり、イクメンやカジメンと称されることにはむしろ抵抗がある」。それに、最近の父親は、妻の生理用品を買うことにも躊躇なくなっている。羽根つき、ウイスパや花王といった銘柄、昼用か夜用か、ちゃんと区別して指示されたものを購入できる。

子育て: こうあってほしいなあ

子供たちには「他人に優しい人になってほしい。そうすると、優しくした人に支えられて生きていけるから」。「人間力」とか「礼儀正しいこと」も大切ななあ。勉強のことはあまりいわない。むしろ、パパと遊んでオーラを出している。長女は「将来は大学を出て、英語の先生になりたい」といっている。

大学教員として

- ・「婚活」ならぬ「恋活」を企画・運営している。新潟経営大学は男子学生が9割、しかも草食系男子が多い。新潟中央短期大学の女子学生との出会いの場としてバーベキュー、ボーリング大会やバレーボール大会など企画・運営している。
- ・学生たちにも自分は家庭人であることや、家庭の話をするように心がけている。「自分は、彼らにとってみると、身近な職業人だから」。
- ・上司・同僚にも、家庭人としての自分の姿を出すようにしている。年賀状は家族写真で送っている。すると「マイホームパパ」というイメージが同僚にできる。妻が夕方から用事があるときや子の誕生日など、早く帰らなくてはならないときに用事ができても、やんわり断ることができるし、何となく納得してもらえるものだ(筆者注:スムーズなコミュニケーションのための戦略)。

その他

- ・低出生率により、毎年100万人以上人口が減り始まる「2035年問題」は、すぐそこに来ている。また、男性より先に女性の方が要介護者になるケースもある。そんな社会・生活環境を勘案すれば、家事はとても大事で、男女ともに家事全般の知識・スキルを持つ教育は必要だ。家庭科教育はコア・カリキュラムにすべき(筆者注:ただし、この場合の家庭科とは、従来型の料理・裁縫だけでなく、年金・所得税といった社会システムや、住宅ローンの返済といったパーソナルファイナンスまで広く含むものだろう、というと、うなずいてくださった)
- ・生きていく上で、家庭は「楽屋裏」。ゴロゴロしたり、愚痴ったり。社会生活でスマートに生きていくためにも、楽屋裏は必要だ。家庭は「パワースポット」という人もいるが、ちょっと違うなあ。
- ・家庭ではPCは広げない。その代り、ムーミンパパよろしく本を読んでいる。
- ・男はつい「忙しい」というけど、それはダサいなあ。

実施概要

平成 24-25 年度厚労科研費政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)

2012.12.12

ヒアリング調査・実施概要

高橋桂子・黒川衣代・倉元綾子

ヒアリング対象者

「既婚男性」。対象者選定のルートは2つ

- 1) 個人ネットワーク
- 2) 平成24年度アンケート調査(連合新潟、連合兵庫、連合徳島、連合鹿児島)で、自主的にヒアリングに応じていただけると回答してもらった方

ヒアリング期間

期間:平成24年12月21日～平成26年3月31日

場所:ヒアリング協力者の勤務先近く(喫茶店など)

時間:1時間30分(予定)

主なヒアリング項目

- ・家事分担は、どのようになさっていますか
- ・家事を分担しようと思ったきっかけは、具体的にどのようなことでしたか
 - 夫婦・親子など家族との関係で
 - 仕事との関係で
 - ご両親、ご近所や知人との関係で
 - 学校教育(家庭科、社会科など)との関係で
 - その他
- ・あなたが家事を分担することで、何か、変わったことはありますか
- ・あなたにとって、「家事」とは何ですか

その他

- ・ヒアリングは、協力者の許可を得て録音することがある。
- ・ヒアリングの立ち上げ記録は、協力者に確認いただく。

資料:質問項目

質問項目

家事分担は、どのようになさっていますか

家事を分担しようと思ったきっかけは、具体的にどのようなことでしたか

夫婦・親子など家族との関係で

仕事との関係で

ご両親、ご近所や知人との関係で

学校教育(家庭科、社会科など)との関係で

その他

あなたが家事を分担することで、何か、変わったことはありますか

あなたは、家事を、誰のために行っていますか。

あなたにとって、「家事」とは何ですか

研究協力依頼書

本日はご多忙のところ、時間を割いていただきまして、ありがとうございます。以下の「研究の趣旨」ならびに「研究倫理遵守に関する誓約書」をご一読の上、可能なようでしたら是非、インタビューに協力していただきたく、お願い申し上げる次第です。

なお、本研究にご協力いただける方は、些少ではありますが規定に従い、謝金として図書カード(1,000 円)をお支払いさせていただいております。ご査収いただけましたら幸いに存じます。

研究の趣旨

女性と職業の関わりを問う世論調査(2009)は「女性は子どもができて職業を続ける」が「子どもができるまで働く」を上回り、意識の上では出産後も女性が職業を続けることを支持しています。しかし家事時間は、3歳以下の子のいる共働き核世帯で男性49分と短く、結果として、職業をもつ女性が仕事と家事の双方に責任をもつ生活スタイルが続いているのが現状です。

論理的に考えると、出産後も女性が仕事を続けることを支持するなら、女性が担ってきた家事の一部を男性が分担する動きを予測させますが、統計からその動きは確認することはできません。なぜ、男性は家事を分担しないのでしょうか。昨今のイクメン・カジメンを勘案すれば、男性は家事を分担する意識がないのではなく、家事を分担しようという意識・意欲はあるものの、それが家事の分担という直接的な行動に結びついていない、と捉えた方が真実に近いと考えます。

そこで、ヒアリング調査を通して、男性が家事労働に対してどのような意識をお持ちか、どのような要因が、男性を家事労働の参加へ導くことができるのか、明らかにしたいと考えます。基本にある理論はTheory of reasoned action(TRA;Ajzen and Fishbein 1980)で、この理論は転職行動(Lane, et al. 1991)、リサイクル(東・西道ら 2009)、運動継続(須藤 2008)、ダイエット(Lee et al. 2009)やブランド選択(西尾・宮澤 1987)などで援用されています。この理論に基づき、行動意図に影響を与える要因を探索したいと考えます。

ご多忙の所、誠に恐縮ではございますが、何卒、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

平成 25 年 1 月

研究代表者 高橋桂子(新潟大学)

研究分担者 黒川衣代(鳴門教育大学)

研究分担者 倉元綾子(鹿児島県立短期大学)

資料:研究倫理遵守(誓約書)

研究倫理遵守に関する誓約書

本研究は、以下の研究倫理に沿って実施されます。

- ・匿名性は以下の形で担保します。まず、お名前が公開されることは一切、ございません。また、公開される際には人物が特定されることのないよう、配慮します。特定可能性のあるお名前そのもののイニシャルを用いることはありません。
- ・研究の協力は、いつでも拒否することができます。また、それは研究協力者の当然の権利ですので、拒否されても研究協力者が不利益を被ることはありません。また、部分的に発言箇所をカットしたい等のご希望がありましたら、遠慮なく申し出てください。なお、そうした場合にも時間を割いて頂いたことに対して感謝いたしますので、謝金は予定通り、お支払いいたします。
- ・ヒアリングの立ち上げ記録を確認いただきます。皆様に一度以上、立ち上げ記録をお渡します。
- ・記録のために用いたICレコーダーの情報はすべて、ヒアリング担当者が管理します。
- ・録音データは、保管する必要がなくなった時点で、すべてのデータを完全に破棄します。
- ・インタビューの内容等の研究データについては、以下の範囲内において使用させていただく可能性があります。

学会や研究会でのシンポジウム、口頭発表やポスター発表
学会誌
研究成果報告書

なお、これは必ずこれらの媒体で公表するということではなく、その可能性があるものを挙げております。

ご不明な点などありましたら、面接担当者もしくは研究代表者にご確認ください。以上の研究趣旨や倫理的誓約を読んだ上で研究に協力していただける方は、以下の研究承諾書へのご記入をお願い致します。

平成 25 年 1 月

研究代表者 高橋桂子(新潟大学教育学部)

〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050

E-mail takahask@ed.niigata-u.ac.jp

*****研究承諾書*****

上の研究趣旨や倫理的誓約をふまえ、研究に協力することを承知致します。なお、研究承諾書は2部作成し、研究者と研究協力者で1部ずつ保管することに同意いたします。

平成 年 月 日

お名前

第3章 研究課題3 厚生労働省「21世紀成年者縦断調査－国民の生活に関する継続調査－」の分析

黒川衣代、倉元綾子

1. 分析サンプルについて

「21世紀成年者縦断調査－国民の生活に関する継続調査－」は、厚生労働省が同一調査対象をサンプルとして、平成14(2002)年より毎年実施している継続調査である。20歳から34歳の男女、及びその配偶者を調査対象に、仕事と子育ての両立支援や若者の雇用対策の観点から、主として、就職、結婚、出産、転職などに関する実態や意識及び行動の変化を継続的に調べている。

今回は本プロジェクトの中間報告であるので、次年度の詳細分析のための枠組構築に向けて最近の実態・傾向を探る目的で、直近の調査、すなわち平成22(2010)年に実施された第9回「21世紀成年者縦断調査－国民の生活に関する継続調査－」のデータを用いて分析する。その際に、本プロジェクトの調査対象が既婚男性であることに鑑み、夫婦ふたりのデータが揃っているとコード化されているケースのみを分析対象とした。

1.1 本分析に用いたサンプルの属性 年齢・子どもに関する変数の記述統計量

| | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
|-----------------|------|-----|-----|-------|-------|
| 【世帯】女性_年齢 | 5777 | 19 | 54 | 36.05 | 4.577 |
| 【世帯】男性_年齢 | 5769 | 23 | 80 | 37.98 | 5.613 |
| 【世帯】子ども数_総数 | 5786 | 0 | 6 | 1.54 | 1.019 |
| 【世帯】小学校入学前の子ども数 | 5786 | 0 | 4 | .66 | .788 |
| 【世帯】末子_年齢 | 4675 | 0 | 28 | 5.79 | 4.670 |

女性の年齢では、19歳と20代を合わせて9.4%であるのに対し、30代が63.6%を占め、40代は26.8%である。男性の年齢では、20代が5.5%、30代が54.5%、40代が37.1%を占めている。子ども数の総数の内訳は、0人が19.2%、1人24.8%、2人40.6%、3人13.4%となっており、2人が多い。小学校入学前の子ども数は、0人52.4%、1人31.0%、2人15.0%、末子の年齢は、0歳～2歳が33.1%、3歳～6歳は21.2%で、最頻値は2歳で10.2%である。

女性の仕事の有無

| | 度数 | パーセント |
|-------------|------|-------|
| 就業 | 3339 | 57.7 |
| 有効 休業中 | 240 | 4.1 |
| 無職 | 2196 | 38.0 |
| 合計 | 5775 | 99.8 |
| 欠損値 システム欠損値 | 11 | .2 |
| 合計 | 5786 | 100.0 |

過半数が就業者であるが、無職が4割近くを占めている。

【女性】_仕事の有無(n=5775)

